第17回　新生児集中ケア認定看護師会勉強会

看護業務の効率化 先進事例アワード2021

最優秀賞

東京都立
小児総合医療センター

# 小児集中治療室で取り組む特定行為実践とタスクシフト

## ～効率的で安全・安心な看護の提供を目指して～

# 施設概要



## 病院の使命

**「すべての子ども達が笑顔になれるよう、
最善の医療を行う」**

## 東京都立小児総合医療センター

所 在 地　東京都府中市

病 床 数　561床　一般347床　結核12床　精神202床

従業員数　925名　うち看護職員数：635名(2021年12月1日現在)

# 取り組みの背景



## 背景

- 医師の業務量が多くタイムリーな対応が困難
- 成人では看護師が当たり前のように実践している業務を医師が実施している
- 医師を待つことにより看護業務の進行が滞る
- 医師の働き方改革に向けた業務改善の推進
- 看護師から薬剤師へ調剤業務を移管している
- 特定行為研修修了者の誕生（2020年3月）

# 取り組みの目的



## 目的

- 医師ー看護師間での診療の補助業務のタスクシフトを実施することで、医師と看護師間の連携を強化し、業務の効率化及び負担軽減、さらには患者へのタイムリーな症状緩和を図ること

- 医師と看護師間の相互理解を深め、チーム医療を推進し、互いの能力を最大限引き出すこと

# タスクシフト・シェアの取り組みの経緯



**2013** 薬剤師：午前中のみの患者３人の持続点滴作成のタスクシフトの開始

**2014** 日本小児総合医療施設協議会
小児重症看護ネットワーク第1回会議開催

**2017** 全患者の持続点滴作成（平日・土曜日の日中）を業務移管
PICUクリニカルラダーの作成

**タスクシフト導入開始**
**（3つの診療の補助業務）**

① 動脈ライン採血
② 圧ライン交換
③ 固定テープ巻き直し

**2018**
**2019** PICUクリニカルラダー改訂版作成
特定行為研修学校入学

**2020** 特定行為研修終了
タスクシフトPT立ち上げ
診療の補助行為の実施者の調査

# 取り組み内容



1　PICUスタッフのタスクシフトの取り組み
2　特定行為研修修了者による実践

# 1．PICUスタッフのタスクシフトの取り組み内容



## 小児の集中治療に携わる看護師のクリニカルラダー

| レベル | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ |
|---|---|---|---|---|---|
| （JNA）<br>レベル毎の定義 | 基本的な看護手順に従い必要に応じて助言を得て看護を実践する | 標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する | ケアの受けてに合う個別性な看護を実践する | 幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する | より複雑な状況において、ケアの受け手にとって最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する |
| （JACHRI）<br>レベル毎の定義と解釈 | 小児の集中治療領域の基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する<br>【施設での具体例】<br>内科系、外科系の軽症例<br>＊欄外の例を参考に各施設で記入可 | 小児の集中治療領域の標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する<br>【施設での具体例】<br>内科系、外科系の一般的な症例<br>＊欄外の例を参考に各自施設で記入可 | 子どもの病態を把握し、子どもとその家族に合う個別的な看護を実践する<br>【施設での具体例】<br>内科系、外科系の重症例（循環不全・呼吸不全）、敗血症、多臓器障害、臓器移植（腎・肝など）、外傷、体外循環（ECMO、CHDFなど）、急変対応、エンドオブライフケア<br>＊欄外の例を参考に各自施設で記入可 | 幅広い視野で子どもの成長発達を含め、予測的判断をもち看護を実践する<br>【施設での具体例】<br>複雑な病態にある子どもと家族エンドオブライフケア（ACP含む。また対象は子ども・家族のみならず、遺族や多職種を含む）、移植待機、蘇生後ケア、迅速な急変対応、施設間搬送、有事の際の迅速な対応、虐待症例<br>＊欄外の例を参考に各自施設で記入可 | より複雑な状況において、子どもとその家族にとって最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する<br>【施設での具体例】<br>より複雑な病態にある子どもと家族<br>臓器移植（脳死下臓器移植など）、先進医療、新しい治療の導入、PICSケア、PICS-Fケア、急変予防、ECMO搬送、有事の際の指揮<br>＊欄外の例を参考に各自施設で記入可 |
| 施設での具体例 | 内科系、外科系の軽症例<br>先天性心疾患術前、術後の非挿管患者症例、呼吸不全で呼吸器を含む呼吸管理を行っている安定中の患者。外科術後（口蓋裂、脊髄係留、頭蓋形成術後など） | 先天性心疾患術前（SPELL発作など）、術後当日、翌日（VSD、ASD、フォンタンなど）シャント、バンディング術後翌日の安定した患者。weaning中のNO、N2使用の症例、PD、体外循環（CHDF） | 重症PH症例、重症のARDS・心筋症・心筋炎、敗血症、多臓器不全、体外循環（ECMO）、NO、N2療法、HFOV、LOSC症例、溺水、重度熱傷、腎・肝移植、エンドオブライフケア | 複雑症例、重症の心筋症で移植待機患者、迅速な急変時対応、施設間の搬送、有事の際の迅速対応、虐待症例 | ユニットで未経験の治療を導入する症例、臓器移植（ドナー）、複雑な家族関係にある子どもの症例、ECMO搬送症例、PICSケア |

# 取り組みの背景

① 救急カートを事前に準備

② 挿入長など指示を確認

③ 呼吸器を一時的に$FiO_2$:1.0へ

## 気管内チューブ巻き替えの一連の流れ

成人の「当たり前」が、小児では当たり前ではないんです！

④ バイタルサインの安定を確認

⑤ 挿入長をメジャーで測定

⑥ 巻き替えを実施

⑦ 皮膚への影響など最終確認

# 1．PICUスタッフのタスクシフトの取り組み



## ■ 効果的、効率的な指導の工夫

タスクシフトマニュアル

### ①マニュアルの作成

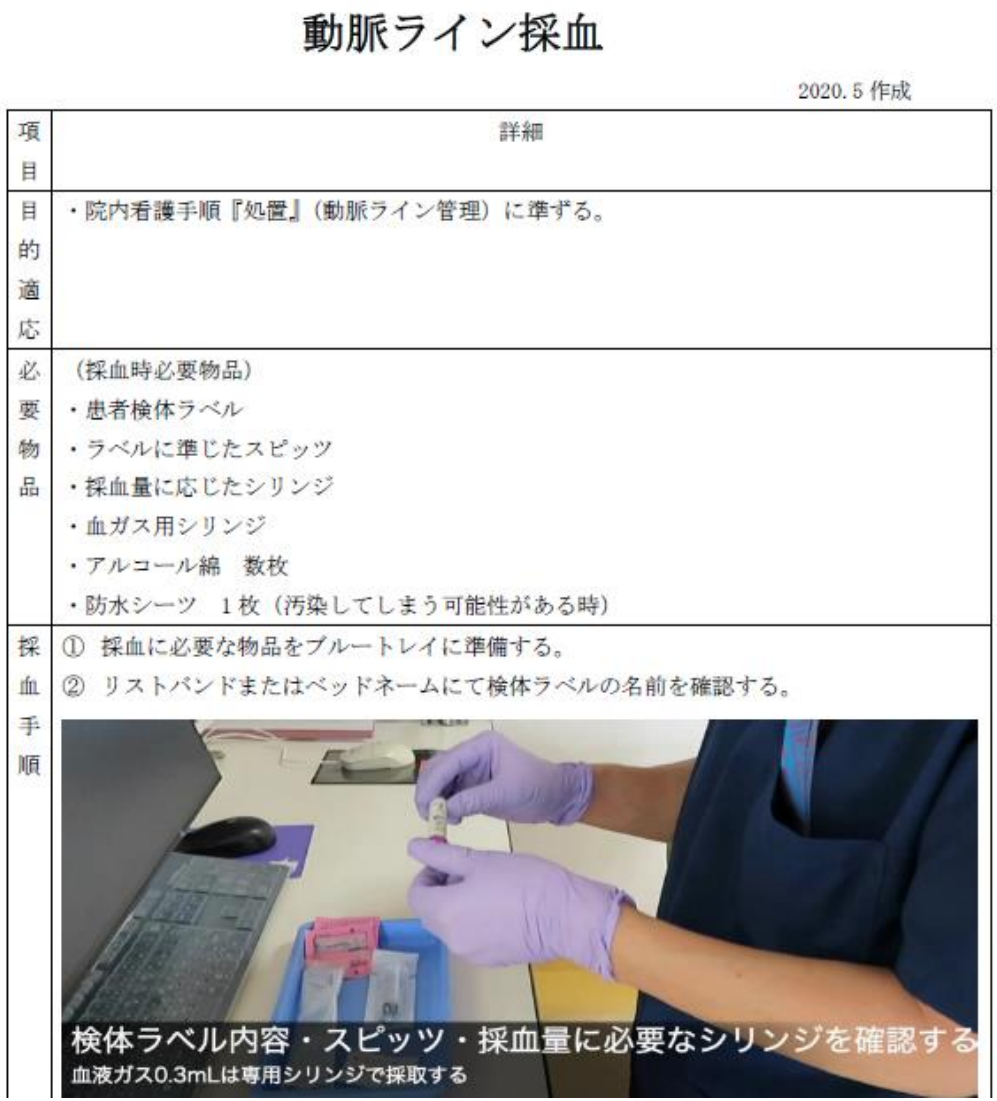
タスクシフト3項目に対して
手順書を基にマニュアルを作成

### ②指導チェックリストの作成

指導者もしくは医師による技術チェック
を受けることで安全性を確保

### ③動画の作成

実際の手技を医師にチェック後、動画を
作成し、スタッフに閲覧してもらった



動脈ライン採血

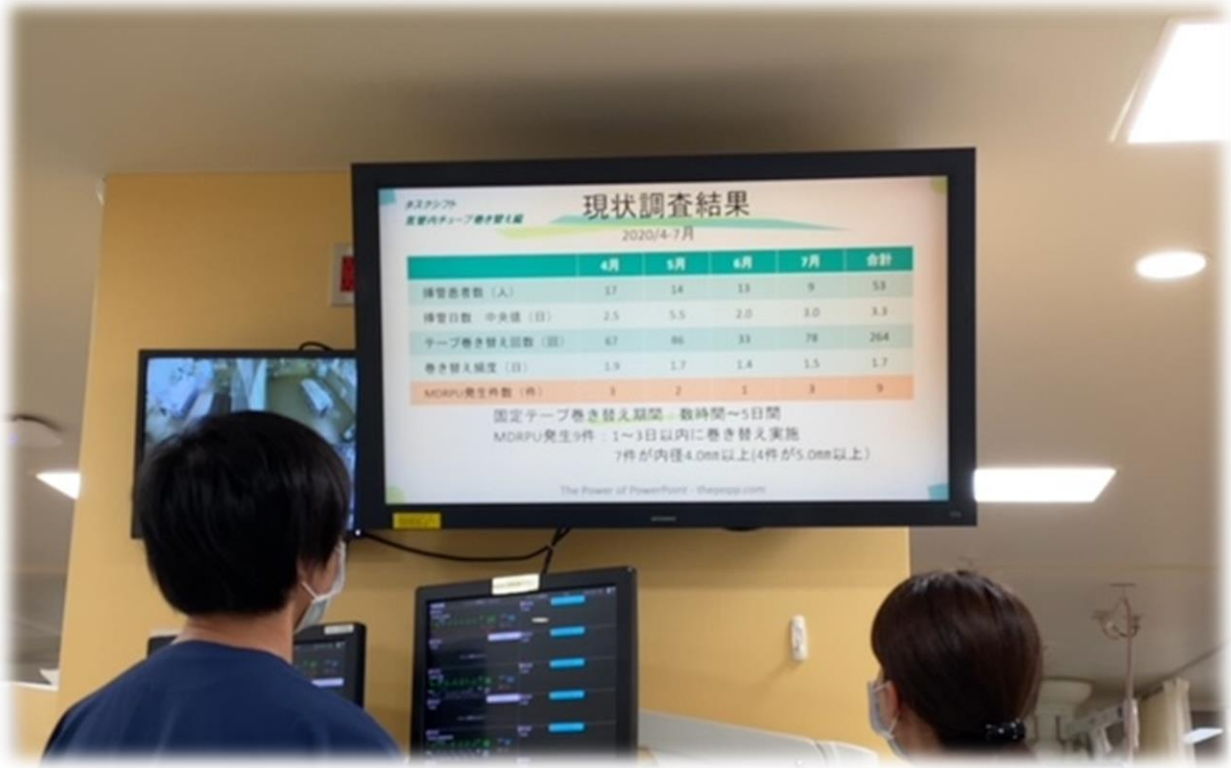
2020.5 作成

| 項目 | 詳細 |
|---|---|
| 目的適応 | ・院内看護手順『処置』（動脈ライン管理）に準ずる。 |
| 必要物品 | （採血時必要物品）<br>・患者検体ラベル<br>・ラベルに準じたスピッツ<br>・採血量に応じたシリンジ<br>・血ガス用シリンジ<br>・アルコール綿　数枚<br>・防水シーツ　1枚（汚染してしまう可能性がある時） |
| 採血手順 | ① 採血に必要な物品をブルートレイに準備する。<br>② リストバンドまたはベッドネームにて検体ラベルの名前を確認する。 |

# 1．PICUスタッフのタスクシフトの取り組み



## タスクシフトの成果をスタッフへの周知




**Aラインや気管内チューブの取り組み、MDRPUの発生率、特定行為を含めた様々な情報をスタッフステーションにあるモニターに表示**

# 1．PICUスタッフのタスクシフトの成果



## ■ 医師の業務時間の軽減　2020年7月～2021年6月

# 2．特定行為研修修了者による実践



**3月**
特定行為研修修了、指導医と手順書の見直し、修正
都立病院特定看護師連絡会開催
医師、看護師に周知

**6月**
取得した特定行為の中で「気管チューブの位置調整」から実践

**7月**
呼吸器関連4行為を医師指導のもと実践開始
院内特定看護師調整委員会開催

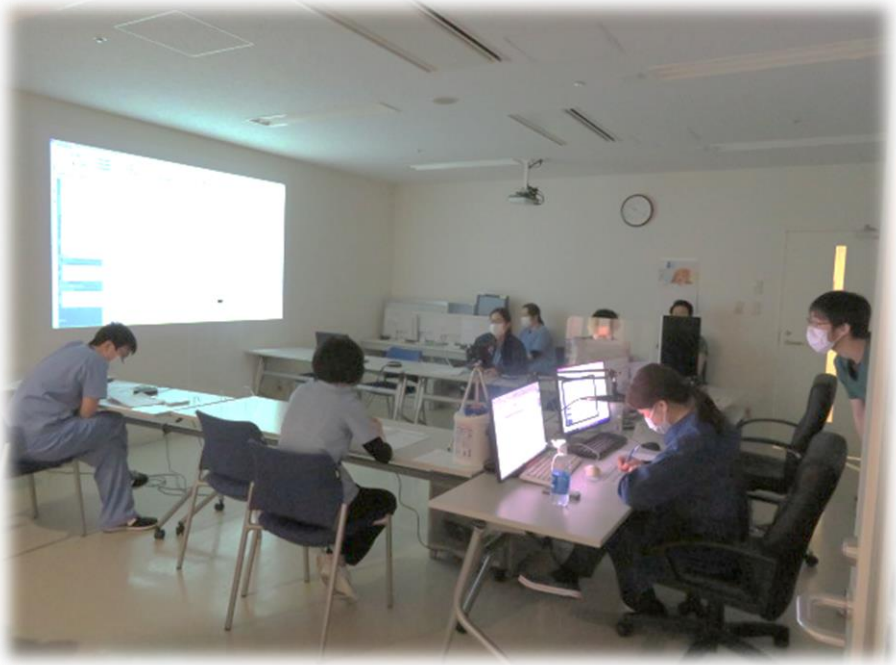
**8月**
指導医と手順書の見直し

**10月**
「栄養及び水分管理」
「循環に関わる薬剤調整」
上記を医師指導のもと実践開始

# 2．特定行為研修修了者による実践



## ■ 情報共有のための多職種カンファレンスと ベッドサイド3分間ディスカッションへの参加



**多職種カンファレンス参加職種**

- ○集中治療科医師
- ○集中治療科看護師
- ○病棟薬剤師
- ○ICTメンバー
- ○各科診療科の医師
- ○臨床工学技士
- ○リハビリテーション科

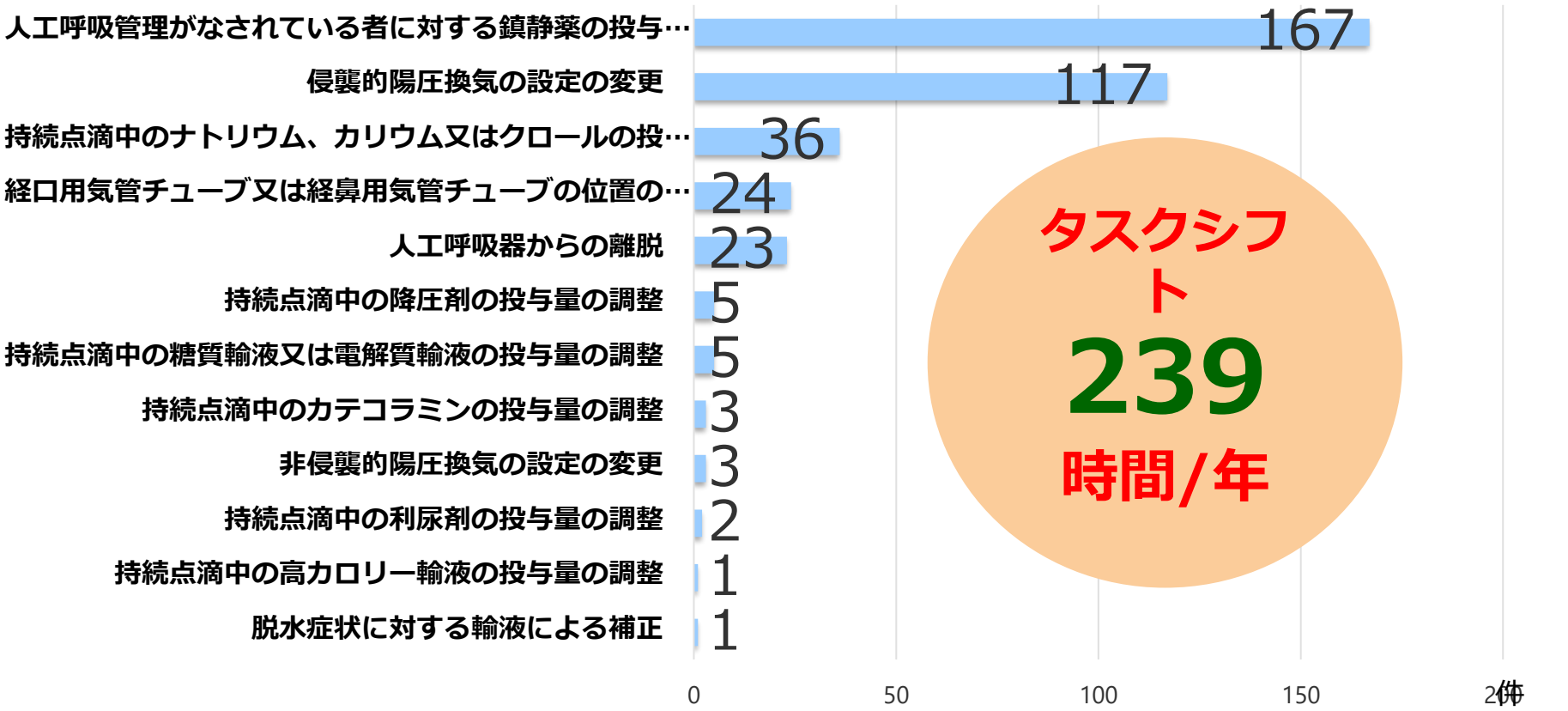
ベッドサイドで行われる
3分間ディスカッションの様子

# 2．特定行為研修修了者による実践の成果



## ■ 医師の業務時間の軽減

### 特定行為と実施件数（2020年7月～2021年6月）387件



# タスクシフト取り組みの成果



## ■ 患者の安全と安心

**MDRPUの発生率の計算**

**実施前　2020年4～6月の３か月**
**実施後　2021年4～6月の３か月**

**＜計算式＞**

$$\frac{\text{MDRPUインシデント件数}}{\text{5㎜以上の挿管チューブ使用数}}$$

### 患者の安心

**動脈ライン挿入中のポートからの採血**
タイムリーな血液ガス採血
速やかな治療の介入

**気管チューブ固定テープ交換**
MDRPUの発生率

**実施前　66%**

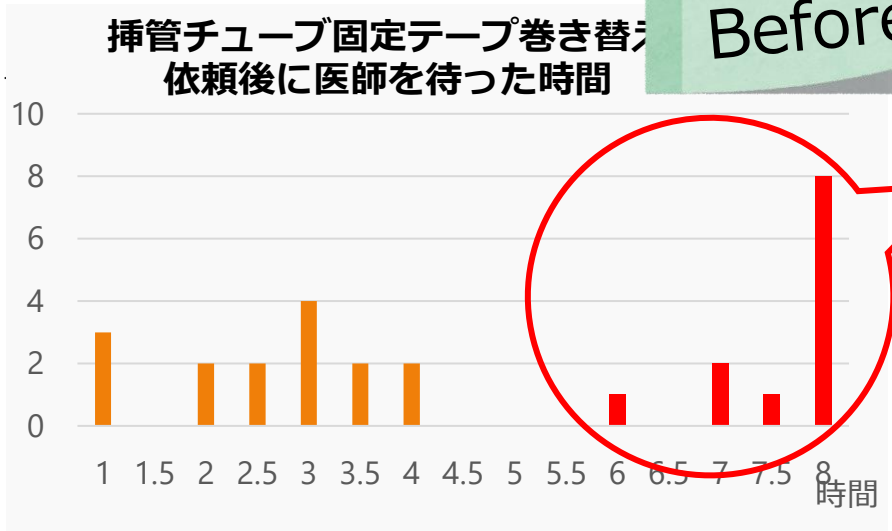
↓

**実施後　16.6%**

# タスクシフト取り組みの成果



Before

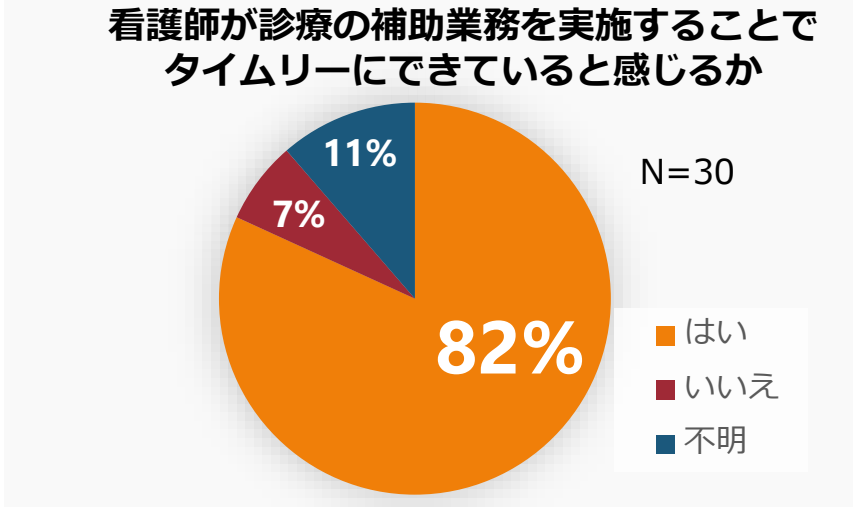



■ 待機時間の削減、看護師の満足度

６～８時間と長時間処置ができないことを
経験したスタッフが**44%**もいた…

タスクシフト導入後

After

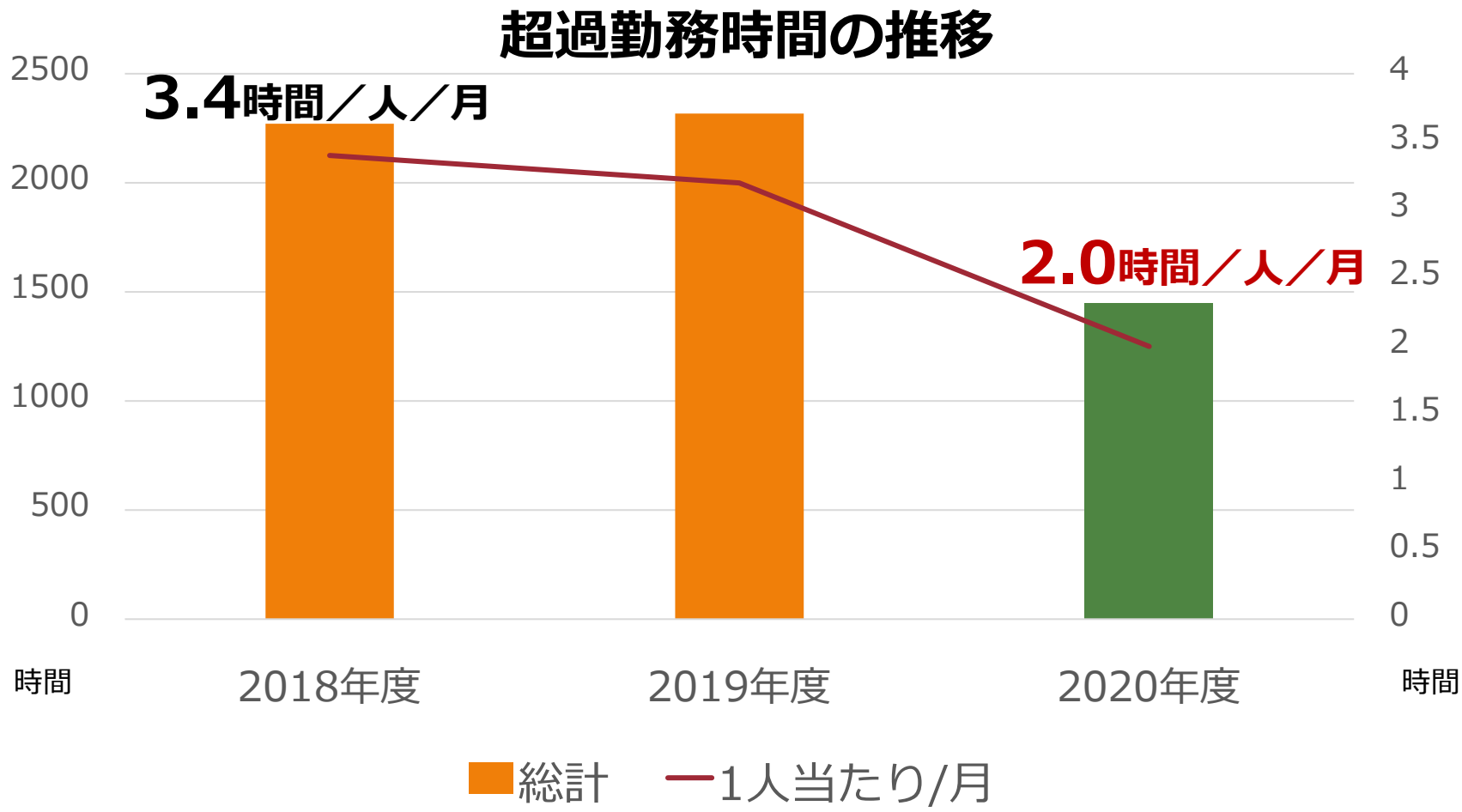



看護師が挿管チューブ巻き替えを
実施可能となり、**82%の看護師が**
**「タイムリーに患者提供できた」と感じた**
（タスクシフト導入後アンケートより）

# タスクシフト取り組みの成果



## ■ 看護師の超過勤務削減にも貢献



# タスクシフト取組の成果



## ■ 医師の業務削減

診療の補助（181.9時間）＋特定行為（239時間）＝**420.9時間**
**医師業務の年間削減時間**

タスクシフトによる医師のメリット

- 重複業務の軽減
- 休息時間の確保
- 記録に専念

→ **時間の有効活用が可能に**

**集中治療科医師からの声**

「特に夜間は医師も少ない時間なので助かっている」
「他の業務を行える時間が増えてありがたい」
「ゆとりをもってカルテを記載することができる」

## 取り組みの効果



# タスクシフトにおける効果

①業務の効率化
②看護の質の向上
③チーム連携の向上
④看護師の満足度の向上
⑤PICUラダーの有効性

# タスクシフト取り組み中の苦労した点と工夫した点



| 苦労した点 | 工夫した点 |
| --- | --- |
| ①<br>タスクシフト業務をスタッフ全員に浸透させること | ・毎朝の多職種カンファレンスでの周知<br>・スタッフの入れ替わりのタイミングで繰り返し伝えた<br>・勤務開始時に担当医師への声掛け |
| ②<br>医療者への特定行為の理解 | ・ポスターの掲示<br>・特定行為についてPICUの医師と看護師に説明<br>・医師に対して実施できる診療の補助行為を指導医を通してアピールした<br>・医師が多忙な時は積極的に声を掛けた<br>・普段から患者の状態や処置内容についてコミュニケーションをとることを心がけた |

# タスクシフト取り組み中の苦労した点と工夫した点



| 苦労した点 | 工夫した点 |
| --- | --- |
| ③<br>看護師のタスクシフトに対するメリットの理解 | ・タスクシフトに至った経緯の説明<br>・看護師に各ラダーレベルに応じて診療補助業務が任せられることを伝えた<br>・看護師がタイムリーに実施することで患者のメリットが多いことを伝える（看護師が実践することでMDRPUの発生率が減少した。看護師同士で処置を実施することで多忙な医師に気を遣うことなくケアができることなど） |
| ④<br>看護師が自信を持って実践する | ・教育ツールとして、マニュアル、チェックリスト、動画を活用<br>・指導者に医師を加え、不安な時は見守りながら一緒に実施することを伝えた<br>・実施した行為に対して医師からポジティブフィードバックを伝えた |

# 現在の状況



## ■スタッフのタスクシフト、業務拡大

2020年から事故０を継続していることから気管チューブ固定テープ巻き替え対象患者のサイズが、5㎜➡4.5㎜➡4㎜（2023年6月）に！

Aライン抜去（ラダーレベルⅣ）の実施が開始！

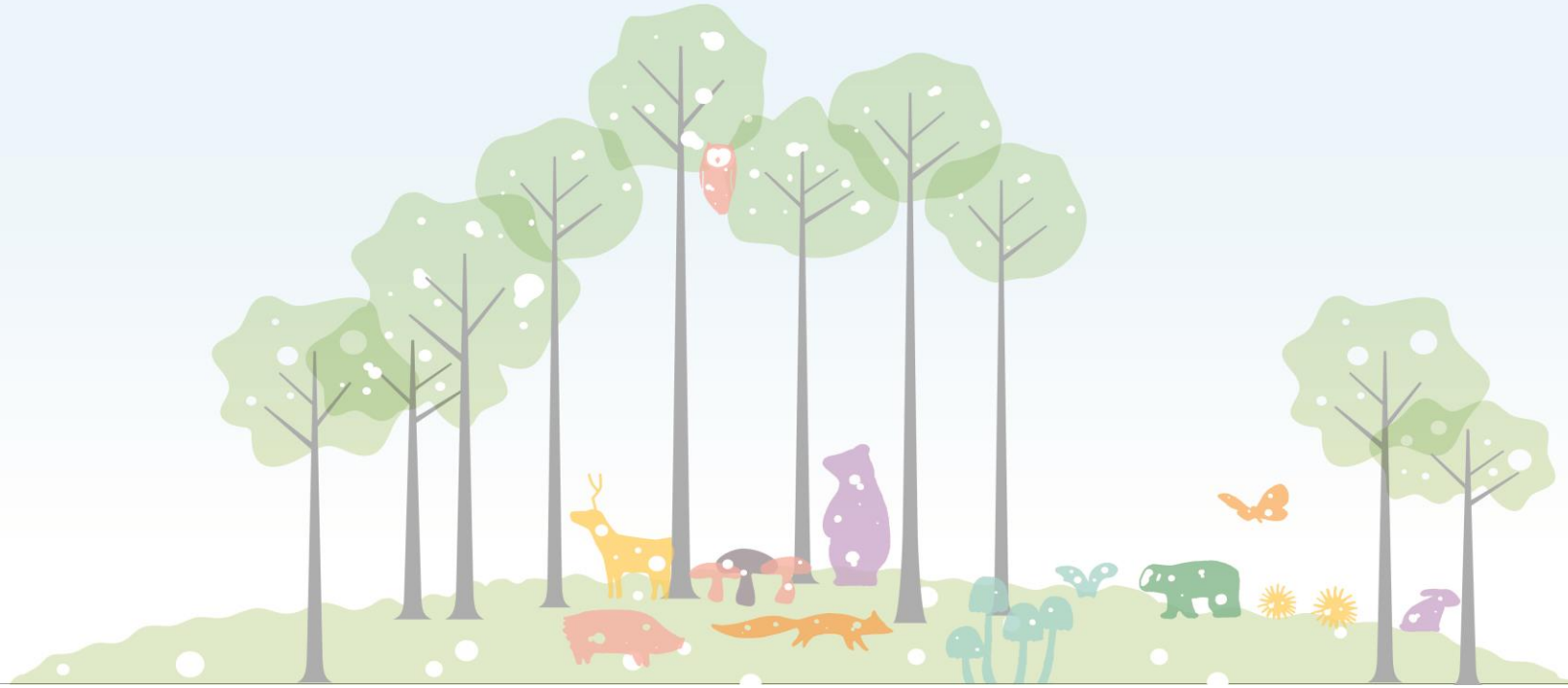
基礎レベルスタッフがAライン採血の検体の測定を実施！（血液ガスデータへの興味、できることが増えることでモチベーションの向上）

## ■特定行為実践

胃ろう交換と気管カニューレ交換を追加履修し、PICUだけでなく、病院全体で実践している。

Point!

同様の取り組みをこれから実施する施設へのアドバイス

- ✓医療者が互いの立場、役割を理解しあう雰囲気づくりが重要！
- ✓業務改善は現場だけでなく、組織全体で取り組むことが重要！
- ✓できると信じて、改革を続けよう！

# ご清聴ありがとうございました